2020.05.25（月）

**川崎支部便り（定期便）（2020年06月　第28号）**

**（オープンで各自が主役：川崎支部）**川崎支部支部長　山岸　一雄

（執筆者　河合・山岸）

　川崎支部の皆さん、お元気でしょうか。

　先月の川崎支部便りはお楽しみ頂けたでしょうか。

文豪たちが送るお祝い状は、名文が多い様です。有島武郎は1920年（大正9年）、41歳

の時京都の定宿の若女将に送った出産祝いは、夫など周囲の関係者の喜びまで想像して共感し、産後の肥立ちへの注意を促す等、教科書通りで文句が付けられません。

　頼まれてもいないのに、名付け親になろうとした文豪もいます。夏目漱石です。漱石の「道草」「明暗」の装丁でも知られ、親交のあった画家・津田清楓（せいふう）に1913年（大正2年）、男児が生まれた際、46歳の漱石は次の命名案を送っています。8月3日の生まれなので八三（はちぞう）は如何、安々と生まれたから安丸（やすまる－やすくうまれる）は如何、一人が生まれたから一人（かずと）またはイチニンは如何、大分長く待ったから長松は如何、高田老松町で生まれたから高松は如何、等です。命名権がないのに勝手に先走り、しかも非常に安易。適当な隠居の様です。

　そもそも漱石は命名に関しては意外に淡泊な様で、出世作「吾輩は猫である」も、本人は「猫伝」としました。それでは面白みがないとアドバイスしたのが、当時の編集者であり、俳人として名をはせた高浜虚子です。また、漱石の長女「筆子」は、妻の境子のが字があまりうまくなかったので、上手になる様の気持ちで付けたといわれています。

お祝い状が素晴らしいのは、我が事の様に満ち、どの様な丁寧な言葉を尽くすより、ともに喜ぶ姿勢が何よりの祝福です。ところで清楓の子のなは、結局どうなったのでしょうか。なんと漱石のおふざけ候補の一つ「安丸」が採用されました。あなたならどうしますか？

**川　崎　点　描　（日本の道路のルーツは？―「道」から「街道」へ）①**

**【**はじめに**】**

以前の定期便で細、長い川崎市を南東（東京湾側）から北西（東京都稲城市側）に縦断している4本の幹線道路を紹介しました。私達は日常淡々と当たり前に使用している「道」について考えたことが有るでしょうか。

私たちの暮らしに身近な住宅地の区割りや町・市境線、区界線、県境線などが、実は古街道だったことが最近わかってきています。つまり、日ごろ何気なく歩いている市街地の道や、近所の丘陵地帯のハイキングコースが、実は古代に都人が往来していた官道や、武士たちが馬駆けた鎌倉街道であることが十分にあり得るのです。古い道といっても、そこにはさまざまな種類があります。飛鳥〜奈良時代の古代律令国家によって整備された官道や江戸時代の街道・脇往還（わきおうかん）といった、当時の治世者が造った国道。あるいは、軍用路として整備された道や集落内の生活道路。いずれも、かつてその土地に生きた人々が造り、歩いた道です。「古街道」の定義とは「江戸時代より前、縄文から戦国時代までにできた街道」となります。それ以降、江戸時代から近代にできた道、主に徳川幕府が整備した街道は「旧街道」と呼んでいます。

  「江戸時代の街道はせいぜい270年ほどの歴史しかありません。一方、古街道は縄文から戦国時代までが範疇なので、約5〜6000年というものすごく長い時代背景があります。古街道は歴史的に古い道であるため、地中に埋没し、畑や林の中に連続する緩やかなくぼみとしてのみ痕跡を残している場合もあります。周辺の土地が変わり、現在は歩けない場所や私有地になっているところもあります。そのため、一部の古街道跡には“線”として正確にたどることが難しく、推定する箇所も有ります。

川崎市の街道には①府中街道（ふちゅうかいどう）（東海道・甲州街道が東西路とすれば、府中街道は南北路の代表）、②津久井道（つくいみち）（津久井・愛甲（あいこう）の絹を江戸へ送るいわゆる「シルクロード」として利用されると同時に、黒川炭などの特産物も運ぶ。）、③大山街道（おおやまかいどう）（古くから、大山詣りの道として知られ、駿河の茶や真綿、伊豆の椎茸、乾魚などの物資を輸送する商業ルートとしても重要。）、④中原街道（なかはらかいどう）（名の起こりは、平塚の中原に徳川家康が御殿をつくり、そこを通って江戸へ向かうために中原街道と呼ばれた。）、⑤東海道（とうかいどう）（慶長6年（1601）いち早く伝馬制がしかれ、53宿が整うのは寛永12年（1635）のこと。）、⑥大師道（だいしみち）（東海道53宿の1つ川崎宿から、厄除けで知られる川崎大師に至る道のこと。）などが知られています。



【日本の道路のルーツは獣道？】

　私達は日常淡々と当たり前に使用している「道」について考えたことが有るでしょうか。「道」と言っても、日本では様々な呼び名や使用目的で、内容の表現が異なります。地球の誕生、2本足や4本足の動物類、人類の誕生等、生物が生きていくのに必要な設備であり、道具です。この生活の手段が、人間の開発、整備、発展に繋がったのです。人類の誕生を見ましょう。

1. 類人以前は人間とよく似た「サル」がいますが、人間は霊長類あるいはサル目と呼ばれ、人は霊長類から分化して現れた生物と考えられています。1億年から7千年前に地球上に最初に霊長類が現れました。

猿人で有名なのはアウストラロピテクス（南のサルの意味）で、ピテクスとはサルの意味です。ルーシーの名で人類学者に有名なアストラロピテクスの女性の一体は、中東アフリカで発見され、400万年～300万年位前に生存したと考えられています。

1. 原人はホモ・エレクトスとも言い、猿人の次の段階になります。猿人の身長は140～150ｃｍですが、原人は160～180ｃｍ位です。約180万年前から猿人が進化した様です。原人の初めての化石はインドネシアのジャワ島で発見された「ジャワ原人」です。そしてアフリカを超えてアジア迄に広がったのは、原人が最初です。60万年前から氷河期に入り、原人は毛皮を身に着け、天幕を張ったシェルターや洞窟で暮らしていた様です。

　50万年位前には、原人による「火の使用」の痕跡が中国の北京で発見されたのが「北京原人」です。火が使えると、暖はもとより明かりがとれ、猛獣を遠ざけたり、食べ物を加熱調理することが出来ます。子供の歴史本の絵に描かれていたことが、思い浮かびませんか。

1. 旧人類は原人の次です。ネアンダール人が良く知られています。旧石器時代の石器の製作技術を持ち、火を積極的に使用した旧人類で、約50～30万年前に登場しました。新説では約4万年前に絶滅した様です。

　サルが起源の1億年から7千年前に最初の霊長類が人類の始発で、中東アフリカのアウストラピテクスや原人がヨーロッパ、アジアの人間の祖となるのでしょうか？

4）「道」とは人間が生きる為の重要な設備であり、手段であり、道具であったと考えます。現代でも同じでしょう。「道」には様々な呼び方が有ります。

1. 「獣道（けものみち）」山野において獣（野生動物）が通る道。大型の哺乳類が日常的に使用している経路のこと。森林内に人が作った林道や山道等を、他の動物が利用することも多い。　人が作る道路のルーツを辿れば、「獣道」と言われ、自然であり、それに手を加えられて歩きやすく幅広く作られて路（みち）となり、更に改良して道路となりました。太古の人間は、動物が作った獣道を辿れば歩きやすく、獲物となる動物を見つけやすいと考え、獣道を辿って歩く様になりました。やがて、人間が歩く為の道路が作られていったとも考えられます。

　　　動物はそれぞれの修正によって、餌を採る場所や水を飲む場所が決まっていたので、古代の人間はその習性を知って生きて行けたと思います。これが、日本列島での「道」の起源になったと考えられます。

1. 「踏み分け路（ふみわけみち）」荒野や丘陵地帯に大雑把に切り開かれた小道や跡地。類語・同義語は、小みち、小道です。
2. 「農道（のうどう）」。日本の農村地域において、農業の用に供するために設けられた道路。農作物の運搬等の為に耕作地や田畑の間に作られた道で、一般には「土地改良法」（1949年（昭和24年）6月6日法律195号土地改良について定める日本の法律）の農業用道路で、所轄は農林水産庁です。
3. 「あぜ道（あぜみち）」田と田の間の細い道。畔道、畦道とも書きます。
4. 「田圃道（たんぼみち）」田圃の間にある道で、上記の畦道と同じ。
5. 「田舎道（いなかみち）」田舎にある道で、多くは未舗装の荒れた道を言う。
6. 「林道（りんどう）」森林の整備・保全を目的として森林地帯に設けられる道路の総称で、森や林の中、特に林産物を運搬する為、森林の内外に設けられた道。「森林法」（1951年（昭和26年）6月26日法律249号森林生産力向上を目的とした森林行政の基本法）の規定に基づいて設置される。
7. 「道（みち）」。古来を通して自然発生的に生じ、人や車等が往来するための所、どこかへ行く時に通る・通った場所であり。人・ものだけでなく目的を達成するための「方法」も含みます。英語ではroad、way、route、street、track、path、passと表します。
8. 「通り（とおり）」。通り（go）、通り抜ける（through）からできた名詞です。人が通るところで、英語ではstreet（通り・通路）、大通りはavenue（大通り・並木道）です。
9. 「道路（どうろ）」。車が通るために人工的に築造（古代では石貼、敷石、砂利敷、現代では舗装等々）し、管理されているもの等で、道の中でも一定の要件を満たすもので、多くある「道」の中でも目的があって法令で決められたものだけを「道路」と言います。

**川崎支部の活動**

　新型コロナウイルスの影響で、仮眠中です。

**ご存知ですか？**

七五三は「11月15日にお参りをする」ものだと思われている方がいますが、この日が選ばれるようになったのは、江戸時代に五代将軍・綱吉の子、徳松（とくまつ）の「髪置」のお祝いをこの日に行ったから、と言われています。江戸時代の前は、11月以外に行われることもあった様で、江戸の終わりになって、11月に統一されていきます。

でも、どうして七、五、三という数字が選ばれたのでしょうか？　昔の日本は、医療も未発達で、乳幼児の死亡率が高く、「七つ前は神のうち」と言われました。親からすると、七歳を超える迄が心配だったのです。この年迄生きていて良かったと神様に感謝し、これからの為にお祓いをした。そういうことではないでしょうか。その中でも、三、五、七の数字が選ばれたのは、これが「聖数」（せいすう）（陽数）だからです。縁起の良い数字が選ばれたのでしょう。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。（連絡先：k\_yamagishi@6kou.co.jp 山岸宛（窓口））